

第10回記念学術研究大会（東洋大学）の概要

佐々木 宏 茂（大会実行委員会委員長）

当学会が設立されてより2004年で第10回となるので、表題の如く記念学術大会を東洋大学で引き受けることになった。仄聞するところ東京で当学会が開催されることは初めてとのこと、日本海沿岸諸国の人的、物的、交流、政治、経済の動向はわが国全体の動向に影響する。共通テーマとしては「大交流時代と北東アジアの新思考」としたが、そのコンセプトはグローバルな視点からも形成されなければならない。こうした観点から当学会の理事で国際地域学部国際観光学科の梁春香教授の熱心な要請もあり、私が実行委員長として協力することになった。実質的には梁教授をはじめとする当学部の諸先生の協力に負うところが多大であった。

ローカルな諸事情、諸条件の実態的な研究と、それらを基盤として、現実的ではあるが展望の可能性を探りつつ、経済、政治、社会文化の発展により恒久的な世界平和と理想的なグローバル化を目指すことが望まれる。太平洋沿岸地域においては地理的環境から北東アジアを展望する情報がややもすると不足しがちである。わが国沿岸の半分は日本海（東海）にある。日本海沿岸の諸都市から半径1500キロの半円を描けば、北東アジアの中国北東部三省、遼寧省、黒龍江省、吉林省、韓国、北朝鮮、ロシア極東部のウラジオストク、ハバロフスク、内モンゴルまでを包摂する。しかも日本海（東海）は地中海の約3分の1弱の広さである。地理的条件と相互補完関係からのみ考えて見れば、より協力しやすい条件はそろっている。こうした観点からは環日本海学会は大きな役割を期待される学会であろう。このような意に沿うべく、以下のごとく学会員各自の発表に先立ち、基調講演とパネルディスカッションを行った。

基調講演として北東アジア諸国の経済協力における企業の国際経営についてと題して、中国・天津南開大学国際商学院院長の李維安教授から、北東アジアの経済協力の国際化と当該地域における

コーポレート・ガバナンス体制の重要性や革新について講演をしてもらった。

パネルディスカッションについては、今回はパネリストとして共通テーマ「大交流時代と北東アジアの新思考」のもとに、駐日モンゴル大使特命全権大使のZ・バドルジャアル氏、中華人民共和國大使館一等書記官の胡志平氏、駐日ロシア連邦大使館経済担当参事官のS・V・ワシリエフ氏、(財)環日本海経済研究所所長の吉田進氏、(財)総合研究開発機構研究交流部部長の篠塚保氏、コーディネーターとして立命館アジア太平洋大学副学長の林堅太郎氏に、ご多忙なところをご登場願ひ、パネルディスカッションを行った。総体的には特に北東アジアのグランドデザインとグローバル化に伴うネットワークの形成が必要であるが、北東アジア経済圏の形成統合は関係する諸組織が独自の活動を展開しつつも、最終的には北東アジア共同体構築に向けられた協力体制を形成すべきであるとの見解が披露された。特に篠塚氏の見解として、各国の非政府組織が進めてきた北東アジアの問題研究を、各国政府関係者も参加した協議体を形成して暫時政府ベースの検討の場に拡大すべきであるとの発言が注目された。

ふり返れば、学会も非政府組織の一翼を担うものである。東洋大学で当学会を開催したのもいささかの成果であろうか。今後も継続した研究成果を挙げられるよう期待したい。

後援団体として、財団法人環日本海経済研究所(ERINA)、北陸環日本海経済交流促進協議会(AJEC)、東洋大学地域活性化研究所の各団体の協力をいただいた。

また東洋大学の大会実行委員会の梁春香、小浪博英、松園俊志、久留島守広、金子 彰、高橋直美、飯嶋好彦の各先生には紙上を借りて謝意を表したい。

第1分科会：政治・経済

1. 北東アジアにおける国境をまたぐ地域の地域開発に関する一考察
金子 彰（東洋大学）
小俣 菜葉（東洋大学大学院卒業生） 114
コメント 佐々木宏茂（東洋大学）
2. EUの東方拡大と下位地域協力 — 南東欧安定条約をめぐって —
高橋 和（山形大学） 116
コメント 小山 洋司（新潟大学）
3. ASEAN主導の東アジア地域主義 — 東北アジアの視座 —
— ASEAN+3、FTAのマルチラテラリズム
森川 裕二（早稲田大学大学院生） 118
コメント 宍戸駿太郎（環日本海経済研究所）
4. 気候変動問題をめぐる国際政治
野口 剛嗣（早稲田大学大学院生） 119
コメント 若月 章（新潟女子短期大学）

第2分科会：環境・開発・自然・エネルギー分野

1. アジア環境白書：環日本海地域の環境協力章を起筆して
龍 世祥（富山大学）
桂木 健次（福岡工業大学） 122
コメント 久留島守広（東洋大学）
2. 地球エコシステムとしての地中隔離 — CO₂分離・地中隔離・植物工場の導入 —
久留島守広（東洋大学） 123
コメント 桂木 健次（福岡工業大学）
3. 日本古来の人魚、リュウグウノツカイの生物学
本間 義治（新潟大学） 126
コメント 大海原 宏（福井県立大学）

第3分科会：社会・観光・文化

1. 観光産業におけるXMLの適用について
浦山 重郎（中央大学） 128
コメント 小浪 博英（東京女学館大学）
2. 日本海沿岸諸都市の観光振興に関する考察
小浪 博英（東京女学館大学） 130
コメント 戸沼 幸市（早稲田大学）
3. 中国東北三省の国際観光市場に関する考察
梁 春香（東洋大学）
宇佐美信幸（東洋大学大学院生） 133
コメント 野村 允（金沢星陵大学）

4. 北東アジアにおける観光教育	137
佐々木宏茂（東洋大学）	
コメント 松園 俊志（東洋大学）	

第4分科会：地域連携・評価

1. 中国のグローバリゼーションについて	140
Jung-Dong Park (University of Incheon, KOREA)	
コメント 三村 光弘（財団法人環日本海経済研究所）	
2. ロシアにおける勘定科目表	140
齋藤久美子（和歌山大学）	
コメント 荒井 信雄（札幌国際大学）	
3. リージョナル・アイデンティティ	142
ラマシェバ・ユーリヤ（新潟大学大学院生）	
コメント 高橋 正樹（新潟国際情報大学）	
4. 1980年代中国労働力移動について	146
楊 世英（東北学院大学）	
コメント 坂田 幹男（福井県立大学）	
5. 新しい産官学—地域連携のあり方と大学・地域の役割	
— 京都・まいづる立命館地域創造機構の挑戦 —	
山田 一隆（大学連携センター 京都・まいづる立命館地域創造機構）	149
コメント 林 堅太郎（立命館アジア太平洋大学）	

第5分科会：歴史

1. 渤海国旅遊路の開発整備に関する研究（その3）	153
青木 雅明（東洋大学）	
コメント 金 光林（新潟産業大学）	
2. 高句麗史の帰属をめぐる韓国・朝鮮と中国の論争	156
金 光林（新潟産業大学）	
コメント 熊田 亮介（秋田大学）	

環日本海学会会則	160
『環日本海研究』編集要綱	162
『環日本海研究』執筆要綱	163
役員：理事会／事務局／編集委員会	165
編集後記	166